

あ と が き

令和6年度の「事業年報」(第57号)をお届けします。紙ベースからデジタル版にして3年目になります。デジタル版で紙面の見やすさに改善を進めています。

各分野で目立つ点を挙げると、個人情報保護体制ではプライバシーマークの更新審査で多くの部署の協力、努力が実り合格認定を受けることが出来ました。

一般検診で注目されるのは女性のBMIです。やせの指標となるBMI18.4%以下が40歳以降では12%台であるのに比べ30歳未満では18.6%と非常に高く、若い女性のやせが目立っています。

一般検診では8020運動を含め歯周病健診として歯科検診の受診率の増加が期待されますが、まだ5,900件に留まっています。

特定健診のリスクに応じて40歳以上では保健指導の対象に「動機付け支援」と「積極的支援」がありますが生活習慣病の予防の観点から、産業保健師が保険者である事業所と連携を取りながら改善に寄与しています。

乳がん検診で1回の圧迫で多方向から撮影する3Dマンモグラフィが導入されてきましたが、まだ十分に検査件数が伸びてきていません。もう少し普及することが望まれます。

精密総合健診(人間ドック)の受診数は減少傾向にありましたがやや復活しました。前歴(継続して受診)をみると、初回が1,156件で2回、3回と継続して受診する方が次第に減少しますが、6年以上受けている方が3,741件と45%にもなります。その詳細は分かりませんが健診を大切に継続されているとしたら、うれしいことです。

特殊健康診断では危険有毒性のある化学物質のリスクアセスメントの実施に向け、検査が拡大されますが、必ずしも検査方法が確立されていない検査もあり課題となっています。

母子保健では新生児マススクリーニングに重症複合免疫不全症(SKID)、脊髄性筋萎縮症(SMA)の拡大マススクリーニングが公費負担として国の実証事業が開始されていましたが、県全体としては10月から参加し、結果として前年より検査数が大きく伸びました。

Web健診の導入など、まだまだ健診、検診の進め方に発展の余地が残されています。さらによりよい健診、検診に近づけるため引き続きご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

(令和7年12月 集団検診センター所長 大崎逸朗)

令和6年度 事業年報
第57号
令和8年3月発行

編集人 大 崎 逸 朗
発行人 根 本 克 幸
発行所 公益財団法人 神奈川県予防医学協会
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-3-3
横浜コネクタスクエア4F
電話 0570 (023) 311
<https://www.yobouigaku-kanagawa.or.jp/>
印刷 株式会社 クレコミックス
〒231-0047 横浜市中区羽衣町2-7-10
関内駅前マークビル4F
電話 045 (308) 0020